

2007年定例会での公明党の代表質問要旨

行政改革

●事務事業の見直しや職員定数の削減

これまでの事務事業の総点検や職員定数の削減の成果とこれからの区の役割や民間との協働事業、区民サービスの質の確保など区の行財政改革の姿勢を論及しました。

●新たな財源確保

今後の区の財源確保のため、新たな発想が必要であると訴えました。広告事業や区有地の利用など、財源は自ら稼ぐという姿勢も重要であると訴えました。

●出張所の土曜窓口開設を

時代の変化を捉え、区民のニーズを踏まえた行政サービスが必要です。平日には、行政の窓口に行けない区民も多い状況から、土曜日の出張所の窓口開設本格実施を求め、区より来年度、区内で5箇所で開設との答弁。

子育て支援・少子化対策

●子どものインフルエンザ予防接種に助成を

毎年インフルエンザの流行による学級閉鎖が絶えません。子どもの予防接種は2回接種になっており、負担が大きいところから、子どものインフルエンザ予防接種助成制度の創設を提案しました。

●妊娠婦健診の無料化拡大を

昨年の8月、妊娠のたらい回しにより死産した事件。妊娠婦健診によるかかりつけの医者の存在は出産にあたって大変重要です。時間的、経済的理由から健診を受診しない妊娠も多いことから公費負担の拡大を要望しました。

●認証保育所の保育料助成を

区では、保育サービス待機児ゼロに向け、認可保育園拡充や、認証保育所新設を積極的に進めていますが、認可と認証保育料は大きな差があります。やむを得ず認証保育への家庭も多く、保育料格差是正のため認証の保育料の助成を要望しました。

教育と生涯学習

●いじめ・不登校対策について

いじめによる不登校対策が早急の課題です。身近な場所で支援を受けられる「ほっとスクール」は重要な施設であります。いじめ・不登校対策の充実とともに、さらに第3のほっとスクールを設置するよう提案しました。

●区内大学との連携で生涯学習の充実

区は、生涯学習を推進するため、区内の大学と連携して、社会人向け講座や、eカレッジ等を推進しています。今後、高度の専門分野の学習機会を大学との連携で創設するように提案しました。

高齢者・障害者支援

●セーフティネット社会の構築を

格差社会の中で、一番困っている人を守る。困っている一人を決して見逃さない。生活難民を出さないセーフティネット社会の構築が重要。福祉施策を充実し、生活困窮者を見逃さない政策が重要であると訴えました。

●がん検診の受診率向上への対応

がんは、日本人の死亡率の第1位を占め、3人に1人ががんで亡くなるなど、国民の健康にとって大きな脅威になっています。区民の受診率向上への対応策や新たながん検診を行うよう求めました。

●区独自の介護人材の確保

介護報酬の見直しに伴う賃金低下など、労働環境の悪化による介護ヘルパーなどの介護人材の不足が、深刻な問題となっています。

世田谷区は福祉を重視してきた自治体として、独自の人材確保を打ち出すよう求めました。

●親亡き後対策へ早急な取り組み

知的障害者の約70%が親と同居しており、親の高齢化に伴う親亡き後への不安の声は切実であります。地域でのネットワーク構築やグループホーム整備など具体的な対策を講じるよう求めました。

環境問題、みどり政策

●温暖化対策・みどり率向上へ

地球温暖化の状況は予想以上に深刻な状況になっています。区のみどり率33%を達成のため、農地の保全や水環境の保全と再生などが重要であり、屋上や壁面、駐車場の緑化などを進めるよう求めました。

●アイドリングストップ装置

CO₂削減は地球温暖化防止に向け喫緊の課題であります。一部バスなどに導入されているアイドリングストップ装置普及のため、まず区の庁有車に取り付けるよう提案しました。さらに、区民へもアイドリングストップ装置の助成制度を作るよう求めました。

人と動物との共生とトラブル解消

●飼い主のいない猫への施策の充実

人と動物との共生の観点から、不幸な猫をふやさないための地域活動に対する施策の充実。飼い主のいない猫の不妊去勢手術助成を求めました。

●区立公園でのドッグラン、ドッグエリア

区立公園でのドッグランやドッグエリアを新設するよう求めました。人と動物の共生のためにも、同施設で犬のしつけ教室などができるよう仕組みづくりを訴えました。

皆様の身边にいます！公明党の区議会議員。ご意見、ご要望をお聞かせ下さい。

